第５回観光まちづくりワーキング会議@本庁舎３階会議室
９：30～12：00

出席者：阿部部長、杉村、水谷、三浦、荒井、ＢＧ田村、河内、山里・田村、多田、樋口
事務局：宮田、立花、阿部

遠野市観光基本計画検討プロジェクトについて
【観光地として目指す姿・取り組みの方向性】

杉村：先日、高清水展望台へ行ってきた。視察の状況を共有したい。
9/15　朝５時頃～30分間で車７台12名程度の来訪
綾織方面から来て綾織方面に帰る人が多い。
滞在状況としては、デッキで見る人がほとんどなく、土手で見る人が多い。デッキは柱があって見にくいのかも。
google口コミ参照★4.4　雲海でなくてもどの時間帯でも非常に評価が高い
一方で問題点として（課題）
・道路が悪い・側溝が多く道が狭い・落ち葉が滑る
・野生動物が出そう
・現地までの案内が弱い
・アクセスの案内を観光協会ＨＰになど必要ではないか
・混雑時に駐車場が足りない
・フォトスポットが未整備（柱が邪魔・吹き流しが邪魔）
・飲食の提供・アクティビティの強化

三浦：綾織方面からの道路は安全面は考えたい
田村（山里）：今ある道路の整備するだけでもかなり違うと思う。有志で掃除を年に２回行っている。
田村（ＢＧ）：長野県白馬リゾートで、見える景色は高清水とそんなに変わらない。頂上までゴンドラで2400円とかかかるが、かなり人が来ているし、満足度が高い。

水谷：前回会議の振り返りの説明（別冊資料Ｐ2）
キーコンテンツ
今回の検討事項
キーワード検索の状況（Ｐ７）
「ビール」が圧勝
ビール以外の検索の状況（Ｐ９）
遠野市を訪問する観光客（ユニークユーザー数）
今までの数値は各観光地のカウンター数の合計であった
周遊スポットの数で割り戻した結果として、43万人ほどが現実（実数）の数字か。
他地域の観光消費額の事例を踏まえた試算（Ｐ１６）
高山市と比較してみると遠野は宿泊・土産物・飲食が弱い

遠野市の観光施策に関する自治体予算（Ｐ２１）

三浦：今までの予算関係はＰ２１のとおりだが、この先のものとして馬力大会やリバーサイド祭りに代わる新たしいカタチのイベントが必要か。小規模でも代替イベントを考えてもよいかも。

杉村：参考としての花巻市は、イベントで人を呼び、情報発信にもしっかり予算をつけている。遠野はイベントだけに依存しない情報発信をする必要があるのではないか。

水谷氏：基本構想の検討について（Ｐ２４～）
【基本理念】永遠のふるさと
３つのエントリーテーマは
【妖怪カッパ・ビール・雲海】
基本理念がざっくりとしていてわかりにくいところを、わかりやすくするためのエントリーテーマが３つという考え方。来てもらうきっかけとしてのテーマがエントリーテーマである。最終的にはきてもらった方に「永遠のふるさと」と感じてもらう。

阿部部長：永遠の日本のふるさとは遠野市の将来像である。遠野市が考える「永遠の日本のふるさと」とはかつてどこにでも見られた田園風景や郷土芸能などは変えないもの、高規格道路や浄化槽などの必要な社会インフラ等など変えるべきもの。これらを区別しまちづくりを進めると、ふるさとの原風景、遠野らしさが継承され、結果的に日本の宝、ふるさととしての価値を放つという考え方である。

多田：サステナブルツーリズムの考え方は「永遠の日本のふるさと」を残そうという考え方に合致する。かみ砕いて今後も皆様にお伝えしていきたい。

水谷：観光消費額向上（Ｐ26)、ターゲット顧客層（Ｐ２７）について説明
①知的シニア
②ファミリー層
③食の探究者

杉村：人物設定（ペルソナ）したほうが旅を企画しやすい。
阿部部長：知的シニアについて、前に遠野には「遠野物語研究所」という機関があり、民俗学大学を毎年開催していた。内容は、フィールドワークとして遠野物語縁の史跡等を巡り、それらをまとめた本の発行し座学を通して追証するというものであった。その本を活用しフィールドワークを合せて作れば苦労することなく知的シニアを対象とした良い観光商品ができる。富川さんに資料をあげているので、それも進めて頂きたい。
杉村：全国カッパ村という団体もある。所属メンバーの高齢化が問題。知的シニアはターゲットになる。
カッパ捕獲という言葉にセンシティブな人も多い。→別紙「カッパ村新聞」、伝承園「遠野カッパ夏祭り」提供

杉村：ブレイン・ストーミングの時間をとるので各自考えて頂きたい。
①～③の各ターゲットに向けてどのような観光体験があればよいでしょうか？
今回のワークとして参加者各自考えて頂きたい。
今は出来ないものでも構わない。
素案は事務局で作成したものを参考として。

水谷：高付加価値のガイドのコンテンツの４つ事例①～④　の説明（Ｐ34）

① 高野山奥の院（企画力の高いコンテンツを開発）
杉村：参加者は20代から50代まで2時間歩ける丈夫な方。一度に30人～60人くらい集まる。
インバウンドも多く来ている。宿坊に宿泊して夕食5時頃で、このツアーは夜7時ころから2時間コース
一人3,000円くらいでかなりの人気がある。
② 着地型観光の展開
　テーマを特化して里山に海外大学のステディツアーなど
③ インバウンドに対応
④ 他サービス・要素との複合化

Ｐ３５　ＩＣＴを活用したガイドの事例

Ｐ３７　古民家ホテル
空き家を活用した事業・リノベは県・市の補助金を活用。

① 知的シニア層について
田村（ＢＧ）：知的シニア向けに、博物館のウェブサイトがあったほうがよい。入口が広がりそう。博物館のウェブから別の観光場所のサイトに飛ばすとか。
河内：朝からガイドをつける。終日ガイドがつくこともよい。詳しくなんでも答えられるガイドが必要か。
田村（山里）：東京の成城や世田谷からシニア層が多い。元学芸員のスタッフがいるので博物館に必ずご案内する。その後伊藤家でそばの昼食。町中のコンテンツでも十分満足度あるようだ。博物館のガイドのあと、自由行動をさせるプラン。
杉村：日本の文化＆歴史好きの方向けなどにした方がよい。民俗学で括るとちょっと狭い入口になる。他の地域に比べて、文字や歴史に残っていない民俗学もある。

田村（山里）：「ブラタモリ」好きな感じの人達が来そう。
田村（ＢＧ）今のシニアは知的好奇心が高い人々。これからのシニアもそのようになっていくのかな？
杉村：高野山のツアーは20代～50代と幅広い。これからのシニアになる方々も興味を持ってもらえるのでは。

田村（ＢＧ）：観光で回るときにアルコールをとるのか？ノンアルコールのビールも海外では質の高いものもある。そのほうが観光には相性がよいのではないか。醸造所でつくるのには制約がある。これから新しく立ち上げるならノンアルコールも視野に入れる方がよいと思う。
阿部部長：単なる甘酒ではなく、発酵したどぶろくからアルコールを除いて作る、本当のノンアルコールのどぶろくもできる可能性がある。

多田：to know の企画参加者は知的好奇心の高い30 - 40代が多いです。ふるさと観光ガイドを依頼する方は年齢層が高いことが多い。どちらの場合も、南部神社など高台から遠野の景色を見せて盆地のご案内する。スタートからガイドが付くコースが良いと思う。

田村：本当に車が移動手段なのか？
杉村：風の丘には車で来ていて情報を収集する方が多い。「大人の休日」のプランをパッケージするされていて観光を考えれるのがよいかと。
田村（ＢＧ）：遠野でガイドを探す方法はどのように？

荒井：観光協会のウェブや電話を受けている。遠野ふるさと観光ガイドを紹介している。
三浦：シニアは朝が早い。朝５時くらいから２時間くらい散歩に行く。
阿部部長：座学とフィールドが合体したコース。タクシーを２時間くらいで貸切＆ガイドをつけて２万円程度の商開発も可能性がある。
田村（ＢＧ）：ガイドが２種をとり運転＆ガイドすればよいのか？
田村（ＢＧ）：宿情報の話。宿探しの難易度が高い。相談されることが多い。マッチングができないと不満がでてしまう。
杉村：宿のバリエーションを増やすのも課題。
田村（山里）：今あるものの情報が見れるサイトなどがあればと。知的シニアからはもっとお金がとれるだろう。

②ファミリー層について
阿部：先日、山地酪農を経営していた中洞正さんという方と意見交換した。産地酪農とは自然農法による酪農経営であるが、長期・短期の研修生として毎年250名程度受け入れている実績がある。このロケーションに、親子ワーケーション、学生等のインターンシップ、観光資源化など様々な可能性があると受け止めている。例えば、それを高清水高原などの公営牧場で行う方法も検討に値する。中洞さんからは遠野市に山地酪農学校をつくるという提言も受けている。本気で進めたい。
飼料としての穀物は高騰するだろう、自然農法による山地酪農を推したい。
水谷：コンテンツとしてはおもしろい。牛乳は本当においしい。
田村（ＢＧ）：伝承園のリニューアルと、物語の館との住み分けはどのように？
杉村：物語の館は子供向け。伝承園は妖怪によせたキャラクターに会える場所としていきたい。それでも子供向けではあるので、知的シニアに向けては遠野のジオラマで遠野物語の場所を表現するなどしたい。
樋口：我が家の子供たちは、本の森ではなく「とおの物語の館」の本に行きたがる。
杉村：「とおの物語の館」でも、リピーターを増やす施策が必要だと思う。
阿部：遠野風の丘では年間を通じて毎月イベントが開催されている。遠野座においてはイベントがプログラム化されていない。要はソフト事業の展開が大事と考える。
樋口：子供たちは肝試し大好き。市民センターはトイレの花子さんの発祥の場所、遠野小学校の西体育館など、恐い話にまつわる場所がある。肝試しができるとよいのかなと思う。
杉村：遠野だからこそリアルな肝試しはよさそう。
阿部：自然系のアクティビティ、乗馬や川下りなども検討したい。
杉村：自然系をどこかがまとめて販売してくれる窓口があればよい。
樋口：遠野市内でのイベントがどこでやっているかなどの情報が届いていない。
田村：家族連れでバーベキューをしたい方は、民泊や柏木平。グランピングもできる場所がある。
杉村：点在する情報を、うまく発信することが必要。

② 食の求道者について
田村（ＢＧ）：ホップ畑に気軽に行けるようにしたい。ホップ畑が見える場所で飲めるみたいな場所。一番はトイレ問題。
田村（山里）：生産現場を見る場所を含めてもよいのかなと。
田村（ＢＧ）：トマトのビニールハウスで味見。その後に農家民宿でランチ。この流れが満足度高い。
ホップとビールの博物館を作る動きもある。
田村：食を求める人は生育物や生産現場も見たい。
水谷：冬に見学できないものもあるかと。

多田：わさびは年間を通じて収穫可能。
阿部部長：遠野牛も商品化しなければならない。遠野牛専門のレストランも検討に値する。また、日本固有の麹を活用した発酵文化として食への拘りが必要である。
田村（山里）：それぞれがやっていることが点在する。それを誰がまとめ、実施者はだれか。各アイデアをやるのに限界がある。まちなかでバケツでジンギスカンができる場所があるとよい。アサクラ酒店で置きクラフトビールをやってもらっている。地元の酒店にも貢献できるかなと。
杉村：次回、今まで出された意見を一覧にまとめる。実施者については市がやるもの、民間がやるもの、官民共同でやるもの、と分けて考えることが必要。バケツでジンギスカンについて冬はＮＧだろう。まちなかで屋内でのジンギスカンで考えたほうがよいかも。
阿部部長：あすもあ１階でジンギスカンというアイデアもあったが、排煙装置で4000万円かかる。
三浦：遠野のみんなで考えないと無理。
杉村：優先順位を考える必要がある。
三浦：宿泊応援クーポンなどもある。10月以降も続けるかどうかで回遊するお客様が減るなども考えなくてはいけない。
多田：30代くらいの食の求道者は、事前にかなり情報を入れてくる。観光協会の飲食店マップが古くなっている場合もある。ある程度の情報の更新が必要。
三浦：来年のホップ収穫祭の宿泊予約が入っている。みんなの期待が大きい。
田村：収穫祭を春と秋で２回に分けて行ってもよいかも。

水谷：以上で今回は終了とする。今回のみなさんの意見を取りまとめていきたい。
杉村：本日の協議結果をまとめ、次回のワーキングまでに基本計画案にまとめる。

以上